

ベトナムフィールドワーク報告（医療班）

私たち医療班（中尾、藤本、松田、森山）は、ハノイを中心に研修を行いました。

① ヒエンカイン村でのフィールドワーク

NIHE（国立衛生疫学研究所）で下痢症の研究をされている岩下先生、現地の大学院生ハンさん、アインさんと共に、ヒエンカイン村を視察し、保健センターや、2軒の家庭を訪問して、ベトナムの農村地区の現状や、研究を進めていくためにどのような体制で協力を行っているかを知ることができました。ためた雨水を5分以上加熱して飲み水、調理用の水として利用していたり、多くの家で牛やアヒルなどの放牧を行っていたりと、なかなか見る事のできない地域の暮らしを目の当たりにできた貴重な経験になりました。



② NIHEの日本人の先生方による講義

長崎大学の熱帯医学研究所と連携して様々な研究を行っている NIHE で3人の先生方から講義を受けました。どの講義からもベトナムの医療の現状を深く知ることができ、私たちの課題研究をとっても深めることが出来ました。講義の後、研究室でデング熱などを媒介する蚊を実際に見せていただき、ベトナムの医療研究の実態を間近で見ることができました。

最終日には、今回の研修で最もお世話になった長谷部先生との意見交換会を行いました。先生は、私たちの課題研究についてだけでなく、将来の夢に関してもご自身の経験をもとに多くの助言をくださり、私たちにとって、未来についても深く考えることのできたとても良い機会となりました。



③ WHOの日本人職員の方々とのディスカッション

ベトナムの WHO で働いていらっしゃる、加藤先生、今西先生、飯島先生から、WHOの目的や果たすべき役割、それから先生方がそれぞれどのような活動を行っているのかについて話を聞き、さらに課題研究に対する助言をいただきました。一番驚いたことは、WHOでの仕事が、会議やデスクワークばかりではなく、実際に問題を抱えた地域に赴き、ご自身の目で見て、何が必要なのか調査を行うことだということです。先生方の職務に対する熱意を感じるとともに、海外で仕事をする事の魅力を感じることができた、有意義な時間でした。

